

## 向い、台

千葉市立都小学校だより  
令和4年度 9月号

校長 鈴木 巧

## 深紅の大優勝旗が白河の関を越えた夏

コロナ禍ではありましたが、今年も44日間というとても長い夏休みでした。普段はできないことに挑戦したり、新しいことに取り組んだりするなど、有意義に過ごすことができたでしょうか。6年生は延期になった農山村留学が8月29日からいきなり始まり、休み明けのリズムを戻すことが難しいかもしれませんが、皆さんも少しずつ学校のペースに慣れていきましょう。

さて、夏休み中の大きな出来事として、夏の全国高校野球選手権大会で宮城県代表の仙台育英学園高校が初めての日本一となりました。高校野球が始まって108年、この間、東北地方の代表校が優勝したことはありませんでした（海を渡って北海道は駒大苫小牧高校が優勝しています）。私自身の出身が福島県ということもあり、毎年、今年こそは東北代表の優勝を、と願っていました。残念ながら福島代表の聖光学院高校は仙台育英に負けてしまいましたが、仙台育英が優勝し、深紅の大優勝旗が白河の関を越えたことに大きな感銘を受けました。

仙台育英の監督は「コロナに振り回された3年間、苦しい中、あきらめないで努力した結果のたまものである」とおっしゃっていました。全国の高校生だけでなく、世界中すべての人が様々な思いを抱えて過ごしており、日々挑戦し続けていることに敬意を表することができた夏でした。

ちなみに、高校球児のユニフォームの袖には「野球伝来150年」のステッカーが貼られていました。野球が伝来したのと都小が創立されたのが同じ時であることを知り、改めて都小の歴史の重さを感じることができました。

コロナウイルスの感染予防にはまだまだ気を付けていかなければなりません。12月3日には都小創立150周年の記念式典を開催します。みんなでこのうれしい日をお祝いしましょう。

## 都小150年の歴史(4) 創立百周年記念

こちらは校長室前の廊下に飾られている柱時計です。正面のガラス盤には「創立100周年記念」、側面には「たばたや」という文字が刻まれています。子どもたちはこの柱時計を見ると、「先生、この時計動くの?」と聞きます。この柱時計、ねじを巻くと今でも動きます。ただ、少し経つと時間がくるってしまい、正確な時を刻むことはできません。今の時代、このような柱時計が家においてある家庭はほとんどないと思います。いつまでも大事にしていきたいと考えています。

また創立百周年の際には、このほかに記念碑も建立しました。こちらは今も南門の手前に飾られています。この碑に刻まれた「健康で明るい子」は50年たった今でも私たちが育てていきたい子どもの姿です。記念碑の背面に書かれている「歴史と伝統に輝く都小の限りない発展を祈ります」の言葉の通り、都小への愛を育んでいきたいと思ひます。

